



く別院だよりく

モダン寺新聞

第33号

発行所

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院
〒650-0011
神戸市中央区下山手通八丁目一番一号
TEL 078-341-5949

17回忌 阪神・淡路大震災物故者総追悼法要 1.17「いのち」を考える研修会

去る平成23年1月17日午後1時半から「阪神・淡路大震災物故者総追悼法要」が本願寺神戸別院（モダン寺）3階本堂において勤修されました。

ご法要には本堂だけでも400名以上（席が無く立ち見の方も含めて）また、本堂に入れなかった方々は1階にてモニターを通してご参加頂きました。

ご法要後には、戦場カメラマンとして活躍中の渡部陽一氏をむかえて1.17「いのち」を考える研修会が開催され、研修会の前には「あなたにとって大切な言葉はなんですか」と言うテーマで作文募集して代表で四名の生徒さんに朗読していただきました。

神戸龍谷中学校 山田奎公さん

人は理由も無しに動物や人を殺したりしますが、動物は理由も無しに他の生き物を殺したりしません。人は自殺をしますが、動物は自ら命を絶つことはありません。この事を考えると何千万種の生き物の中で人間だけが命の尊さを理解していないようで、人が他の動物に劣っているように思います。しかし人間は感情を言葉にして、表情に表し、コミュニケーションを取る事が出来るの

だから、他の動物に劣っている所を努力して克服しなければいけないと思います。

神戸国際中学校 金沢このみさん

この震災でたくさんの方が亡くなりました、私は震災の時にはまだ生まれていませんでしたが、生きる勇氣を持つこと、自然と共に生きること、仲間と共に助け合って生きる事の大切さを、学びを通して教えていただいたと思います。

神戸龍谷高校 黒田侑花さん

私には決して忘れられない生と死の思い出があります。妹が生まれた時と、祖母が亡くなった時です。生と死について考えれば考えるほど解らなくなります。自殺をする人がありますが、生きたくても生きる事が出来ない人がたくさんいる中で、自殺をした人にも涙を流して悲しむ人が居るはずで、そういう人達への冒涇だと思えます。そう考えると、私は自分で自分の命を消さないという決意を持つ事が出来ました。

須磨ノ浦女子高校 山崎公美子さん

この世に生まれて来た事に感謝し、今生きている事に感謝す

る。今から16年前の大震災の出来事を幼い私はほとんど覚えていません、しかし神戸で生まれ、神戸で育ち、神戸に住んでいる私が、阪神淡路大震災でたくさんの人達が亡くなった悲惨な出来事を知らないと言う言葉で片付けるのは大変失礼な事だと思いました。私達若い世代が、大震災での出来事を風化させることなく伝えて行く事が大切な事だと思いました。



ジェスチャーも大きい渡部氏

なぜ カメラマンに

こんにちはは戦場カメラマンの渡部陽一です。まず何故私が戦場カメラマンになったかをお話します。

二十歳の頃に大学で先生が、ジャングルにいる身長1メートル20センチくらいのピグミー族の話をしてくれました、それを聞いて、居てもたつても居られなくなつて、旅費を貯めてアフリカのピグミー族の人達に会いに行きました。

ジャングルの中に入ってみると、大きな木が覆いかぶさり太陽が見えない状態で2週間経過し、食料も底をつき、意識が盲ろうとして大きな木に寄りかかつて居る所に、運良く一台のトラックが通り掛かったので救助を求めました。快くトラックに乗せてもらいました。熱帯雨林の狭い悪路を走るので、10メートル進んではタイヤが抜かるんで立ち往生、人力でトラックのタイヤを掘り起こす、この作業のくり返しでした。

トラックに乗車して更に2週間経った頃トラックの前方に小学生くらいの子供たち20人前後が出てきました。近づいて見ると子供達は手に銃を持ち、銃弾を首からぶら下げて、こちらに近づいて来ます。ドライバーが私の頭を叩いて伏せて身を隠すよう指示をしますが、取り囲まれてトラックに発砲されました。体を伏せていましたが、悪路を進むトラックから落ちてしまい、気が付くと子供達に銃を突

きつけられ取り囲まれていました。

「殺される」私は思わずポケットの中の米ドル紙幣を子供達の前に投げ出しました。それでも銃を下げてくれないので、着ている衣服、靴、総ての物を差し出しました。すると子供達は銃を持ち替えて私の体を銃で殴りつけました。幸いにして命だけは取られずにすみまし

た。後でこの国で何が起っているのか聞いてみると、ルワンダ民族紛争でした。ろくに教育を受けていない子供達に銃と弾薬を与え近隣の部族を襲わせる、ある子供達は村の若い娘に銃を突き付けジャングルに連れて行く、ある子供達は親に銃を突き付け小さな子どもをさらって行く、さらわれた子供達は学校に通わせてもらえない訳もなく、銃と弾薬を握らされて兵士として戦争に行かされる。

アフリカで最もひどい戦争で百万人の人達が命を落としたと言われています。私は運よく日本に帰る事が出来ました、日本に帰ってルワンダでは子供達が兵隊となつて戦っていた、たくさんのお小さな子供達が助けて下さいと泣いていた。悲惨な現状を周りの人達に話しましたが、あまりにも住む世界が違い

すぎて誰にも理解してもらえませんでした。そこでどうしたら世界で泣いている子供たちの声を届ける事が出来るだろうか、そう考えた時、元々カメラが好きだった私は戦場カメラマンになろうと思いました。

イラクの話を見せていただきました。首都バグダッドから千キロ離れた場所から数百発のミサイルが落とされました。今から65年前日本でも原爆が投下されて今でも被爆に苦しんでいる人達が居ます、それなのに放射能の爆弾「劣化ウラン弾」が秘密の内に投下されました。放射能はイラクの人達が生活する土地を汚染する、食べ物、飲み物総ての物が汚染されて、生まれてくる赤ちゃんまで被爆して障害を持つて生まれてくる。

そんな中でもイラク人のナジムさんは子供達のために学校を開いていました。ナジム先生は授業が始まる前に子供達の前で銃を空へ向けて発砲します。それは子供達が銃声を聞いてもビックリしないように、銃音に慣れさせているそうでした。授業が始まると子供達が笑っていた。戦争で机も椅子も教科書も無いけれども、教室いっぱい床に座つて授業を受けていた。ある子供は遠い村からナジム先

生をたよって学校にやってくる、教科書には「イラクにとつて子供は宝、子供達に教育を施す事はイラクの義務である」と書いてありました。メソポタミア文明発祥の地イラク、周りの国より識字力が高い国、戦争で毎日泣いていた子供達が学校へ来ると真剣な顔で授業を受けていた、笑顔が戻っていた。

しかし子供達は学校が終わると、ある子供はロバのタクシー、ある子供はバナナを売っていた。食べるために一生懸命働いていた。そんな子供達の事を少しでもいいから興味を持って欲しい、我々日本人には想像も出来ない、過酷な状況で子供達が泣いている事を知って欲しい、それが私の願いです。

～講演より記者～

婦人会報恩講

去る平成23年1月20日午後1時半から「神戸別院仏教婦人会報恩講法要」が別院3階総会所において勤修され滝口隆誠別院輪番が法話をした。

お寺とはどういう意味があるのか、一つは「修行する道場」二つには「法を聞く道場」浄土真宗は「法

を聞く道場」です、「法」とは何か、「仏法」お釈迦様が説かれたみ教えであり、お経様を聞かせていただく事です。親鸞聖人は浄土三部経「仏説無量寿経」「仏説観無量寿経」「仏説阿彌陀経」中でも「仏説無量寿経」が三部経の中心と仰いました。

お経様の最後には共通の言葉があります、それは「歡喜」です。お経様を頂いた者は皆喜んで帰っていったとされています。「仏説阿彌陀経」では、「歡喜信受作礼而去」「この尊い教えを賜り、喜びに満ち溢れ深く信じて心に留め、恭しく礼拝して皆立ち去って行った」とあります。

何故喜びかと言えばその反対に厳しい現実があるということです。私達の人生は悩み苦しみを沢山背負って生きて行かなければ成らない、そこで根本的な悩み苦しみを解決するための、真実のみ教えがお経様なんです。「生死の苦海ほとりなし、ひさしくしづめるわれら」をば、弥陀弘誓の舟のみぞ、のせてかならずわたしける「親鸞聖人は迷いの境涯に沈んでいる、そんな日暮をしているのが私達なんです。

お釈迦様は「死の原因は生まれて来た事です」「死の縁は無量です」と説かれました。ですから、生

まれてきた命は必ず死も同時に与えられている命なんですとお示し下さいました。

毎年、厚生労働省が発表する百歳以上のお年寄りの数が年々増えています、現在約四万人を超えました、その内女性の方が三万五千名、男性が五千名、女性の方が長生きしています。65歳以上で連れ合いを亡くされた方々の平均寿命は、男性で四十五年、女性で十七年だそうです、先日(老を生きる)という著書の中に「男はコロリで、女はゴロリ一字違いで大違い」と書いてありました。男性は連れ合いを無くすと寂しさのあまり後を追うように



婦人会を前に熱弁される滝口輪番

比較的早く亡くなり、女性は連れ合いを亡くすと、最初は途方に暮れるが、一旦腹が決まったら居間でゴロリとくつろぐ様に長生きするそうです。うまい事言うものです。私がまだ若い頃、札幌別院に勤務していましたが、別院のご門徒さんで別院の法要によくお参りされた壮年会の会員の方が癌で入院されたと聞いて、お見舞いに行きました。頬がこけてみる影も無い、この人は永くないだろうなと思いました。

しかし本心から「やっぱりに死にとうありません」と仰いました。私は「今度生まれる時は、必ずお浄土でお会いしましょう」それ以上言葉が出てこなかったです、そして、その方の手を握って涙を流して「お念仏」を申しました。

親鸞聖人は「いまだ生まれざる安養浄土恋しからず候」どれだけ生きたいと思っても、死にゆく時にはもっと生きたいと願ひ、思ひ、悩み、苦しまなければならず。逆にどれだけ死にたいと願って、なおも生き続けなければ成らない苦しみ、悩み、迷いがあります。しかも仏説無量寿経では「顛倒上下することは無常の根本なり」即ち「老少不定」人の寿命に老少定めが無い、まさに順番が無いと言う事でありま

す。親鸞聖人は歎異抄において「弥陀の誓願不思議にたすけられまいらせて、往生をばとぐるなりと信じて、念仏もうさんとおもいたつ心の起こるとき、すなわち撰取不捨の利益にあずけしめたまふなり」阿弥陀如来様は私に届いて下さって、心配するな、どんな命でも救いとして行く、弥陀が汝と共に歩む姿は南無阿弥陀仏の名号となって呼び続ける姿であります。

～法話より、記者～

帰敬式(おかみそり)

帰敬式(おかみそり)受式者募集について。

平成二十三年度神戸別院報恩講にあたり、帰敬式を行います。

帰敬式とは、阿弥陀如来・親鸞聖人の御前で浄土真宗の門徒としての自覚をあらたにし、お念仏申す日暮を送ることを誓う、私たちにとって最も大切な儀式です。この帰敬式を受式され、仏弟子となつた方に法名が授与されます。帰敬式を受式し、共にお念仏を喜ぶ人生を歩みましょう。

ご希望される方のお申込みをお待ちいたしております。

◆期日／二〇二二(平成二十三)年十一月二十八日(月) ◆時間／午

後四時三〇分～◆場所／本願寺神戸別院(通称：モダン寺) ◆集合時間／午後三時三〇分 ◆集合場所／本願寺神戸別院三階会議室 ◆申込み期限／内願法名希望者：平成二十三年八月末日 ※内願法名を希望されない方もお早めにお申込み下さい。 ◆定員／先着二〇〇名 ◆受式冥加金／成人：一万円、未成年：五千元(冥加金は当日受付にて承ります) ※内願懇志一万元以上(冥加金とは別途必要) ◆申込み方法／電話、ファックス、封書または葉書にて、お名前、ご住所、電話番号、生年月日、年齢をお伝え下さい。(西本願寺ホームページから印刷された、所定の帰敬式申込用紙でも申込みいただけます)但し、内願申込みはファックス不可 ◆申込み先／〒六五〇一〇〇一一 神戸市中央区下山手通八一一

本願寺神戸別院帰敬式係宛 電話(〇七八)三四一一五九四九 FAX(〇七八)三四一一八五二六

大遠忌法要団参

親鸞聖人750回大遠忌法要(本願寺)団体参拝募集について

この度、本願寺で御修行される親鸞聖人750回大遠忌法要へ神戸別院から団体参拝させて頂

く日程が決定しましたので、【別院仏教壮年会】【別院仏教婦人会】【別院ご門徒】を対象に募集いたします。

スローガン『世の中安穏なれ』は、親鸞聖人が不安と争いの時代にあつて、念仏者のめざす道を示されるなかで述べられたお言葉です。本願寺というお寺は大恩ある親鸞聖人にお逢いしに「お目通りに」行くお寺であります。五〇年に一度のご勝縁に有縁の皆様と一緒に参拝いたしたく重ねてご案内申し上げます。

◆日時／二〇二二(平成二十三)年九月十一日(日)午前の部に参拝いたします。 ◆参加費／一名様約八千五百円 ※バス代・参拝懇志・昼食代・記念写真代を含みますが、仏教壮年会々員・仏教婦人会々員につきましては別途会より助成するか検討致します。 ◆定員／四〇名(大型バス一台) ※申込み多数の場合は(大型バス二台)検討いたします。 ◆出発時間／午前七時半(別院発) ◆帰着時間／午後五時頃 ◆概ねの行程／午前中本願寺にて法要参拝↓昼食↓仏教総合博物館龍谷ミュージアム見学↓ご縁まちマルシェ散策↓青蓮院↓帰路 ◆募集期間／平成二十三年七月末日迄 ◆申込み方法／電話、ファック

納骨堂入仏式

この度、三月十六日に別院二階納骨堂増設部分に、大きき三百代のご本尊をお迎えし、入仏式が行われました。

納骨堂ご希望の方には、現在空きがございますのでお申し込みいただけます。

ス、封書または葉書にて、お名前、ご住所、電話番号、生年月日、年齢をお伝え下さい。 ◆申込み先／〒六五〇一〇〇一一 神戸市中央区下山手通八一一

本願寺神戸別院団体参拝係宛

電話(〇七八)三四一一五九四九

FAX(〇七八)三四一一八五二六

